

平成23年度提案事業

「県北緑の里山作りサミット」開催

～県北地域における放射線影響下での自然体験活動の可能性を考える～

2月4日(土)県北生涯学習センターの多目的ホールで「県北緑の里山作りサミット」を開催しました。県北地域の特色を生かした豊かな自然環境の中で、米作りや里山作り、川の保全など自然体験活動を行っている団体や活動に興味を持っている方々が一堂に会し、参加者45名で情報交換や交流を深める機会となりました。

パネリスト発表では、里山のたまり場御前山代表の小野瀬武康氏が、ツリーハウスなどを作って子ども達に自然体験活動を提供している「里山のたまり場」活動を紹介し、里山体験が人間の成長に不可欠であることを語ってくれました。そして実際に今、自然体験活動を行うにあたって気掛かりな放射線の影響について、(独)産業技術総合研究所桧野良穂氏が、「県北地域の線量レベルは心配することはないが、計測と管理(除染)は必要です」と実際のデータをもとに語ってくれました。

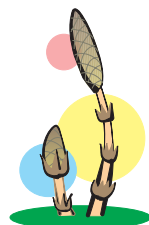
最後のフリートークでは、放射線量に注意すれば野外活動は可能であることを理解し子どもが自然体験活動で手に入れる喜びと育ちをどのように実現し続けていくか、またそのことの大切さについて参加者全員が再確認しました。



県北緑の里山作りサミットに参加して

茨城県北ジオパーク・ジオネット高萩
鹿田 次人さん

大変興味深く拝聴しました。里山たまり場御前山の小野瀬氏と産業技術総合研究所の桧野氏が、「県北地域の放射線影響下での自然体験活動の可能性」のテーマでパネリストとして発表しました。「自然の中でのたまり場作り」「過去の放射線事例に基づく現状の放射線影響度の理解」など示唆に富んだ内容でした。私は、「茨城県北ジオパーク」の推進活動に参画しています。ジオパークは各地域の「風土」を活かした「大地と自然の公園」です(風土とは、各地域の地質、地形、気候、水質などの総合的状況)。それを皆に広めて、保全整備しながら、ジオツアーなど観光を中心とした「地域活性化策」に繋げていく活動をしています。この活動をしていく上で今回のサミットの内容は大変参考になりました。



※参加団体

茨城県立里美野外活動センター／たかはら自然塾「里山づくり隊」／茨城県キャンプ協会／県北ジオパーク・ジオネット高萩／落ち葉ネットワーク里美／NPO法人里山文化ネットワーク／高萩グリーンツーリズム推進会／(財)グリーンふるさと振興機構グリーンふるさと特産物共同組合／げんこつ倶楽部／ケンポックルわくわく隊

※アンケートから

- ・放射線についての内容はとてもタイムリーだと思いました。(砂場や通学路が心配)
- ・県北山間部の枯葉・川・沼・海は、本当に大丈夫なのか不安です。
- ・正しい情報を得ることは、とても大事です。
- ・テーマに思い入れがあり熱心な討議が実施されました。

県民大学

「食べるまでのカツオ学part2 カツオと日本人のつながりをさぐる」

実施日：10/29, 11/5, 12, 15

講師：にひら・あきら氏

前期講座「食べるまでのカツオ学part1」に続いて後期は、「食べるまでのカツオ学part2」を実施しました。講師は、茨城大学地域総合研究所客員研究員のにひら・あきら氏。3回の座学の中で日本人とカツオとの長いつながりの歴史についてや、震災以降問題になっている魚と放射線の関係などを学びました。最終回の現地研修は、震災復興の支援を踏まえ、那珂湊鉄道に乗って那珂湊へ行き、ボランティアガイドの案内で、那珂湊の街中を歴史散策しました。最後は、那珂湊で水揚げされる魚の話に耳を傾けながら地元の美味しい魚を美味しくいただきました。

この講座は、放射線と魚の関係や茨城の海について学ぶだけでなく、那珂湊鉄道に乗りこする事で、地元の良さを再発見できた講座でした。



提案講座

子育てサポーター養成講座

実施日：11/11, 18, 25, 12/2, 9, 16, 1/13, 20

講師：佐藤美年子氏 河村由紀氏 徳田太郎氏

この講座は、保育サポーターの心構え、乳幼児の心身の発達、子どもをとり巻く環境、社会性と生活習慣、食育、安全等いろいろな知識を実技を通して学んだ16時間でした。

受講生は、講座終了と同時にセンターサポーターに登録し、センターサポーター主催の「わくわくランド」の中で「ママにこここそサロン」のコーナーを運営することとなりました。この「ママ」は、現役ママ、卒業したママ、これからママになるママなど幅広い意味が込められています。サロンでは「ビリビリ遊び」「小麦粉粘土遊び」など、楽しい遊びを提供したり、おしゃべりを通して参加者の方々にリフレッシュしていただきたいと思います。

第1回目は、5月12日(土)10時からです。ぜひ皆さんセンターに来てください。



(講座担当：永山)

平成23年度

県北志塾

第5回目 講師 柳生 博氏

「県北志塾～いまをどう生きるか」(全5回)の最終回3月3日(土)に、柳生 博氏をお迎えし、「森と暮らす 森に学ぶ」と題してご講演をいただきました。実は柳生さん、茨城県阿見町出身。そして、役者として脚光を浴びるきっかけが、NHK朝の連続テレビ小説「いちばん星」での野口雨情役(センターとの縁を感じます)。なかなか直らない「茨城弁」が、正にはまり役に。押しも押されぬ大スターとなつてから、心の洗濯にと八ヶ岳に通い、自然に魅了され、雑木林を手入れの中で家族との絆を深め、遂には移住を決意。周りの誤解もあったようですが、今では年間10万人余りの人たちが心癒される森となっています。柳生さんの決断力と行動力、そして自然に謙虚に学ぶその姿勢に大変感銘を受けました。私たちも、思いを実現するセンターで在りたいと思います。(事務局：志摩)



23年度【後期】提案事業

ママの♡ママによる♡ママのための♡

子育てネットワークの作り方報告

子育てにまつわるいろいろな課題を解決するためにはどうしたらよいか、子育て真っ最中のママたち自身で考えながら、コミュニティビジネスを展開しているNPO法人ママとーんの代表理事：鷲田美加氏を講師に迎えて、県北の地域活動を考える講座を実施しました。ワークショップを経て、手作りの子育て情報誌(報告書)を発行し、さらなる子育てネットワークを広げようと講座修了生たちが立ち上げたのが、子育てサークル「ママポックル」です。

2/28(火)は、「ママポックル」主催の初めての子育て広場「ママポックル探検隊」を当センターで行いました。応募参加者15家族32名に、ママポックルの親子を合わせると総勢44名。アロママッサージやヨガ体験、おしゃべりティータイムを楽しみました。(事業担当：松本)



元気は自分で作る、健康は自分で守る！

愛健クラブ

H19年10月から毎週水曜日10時からの1時間半現在11名で、自彊術(じきょうじゅつ)に励み心身の健康増進を図っている。

自彊術は中井房五郎師が人々に施していた療術を誰にでもできる体操にしたもので31の動作からなる。床に正座しての動作、立ち上がっての動作、床に全身を伸ばしての動作というように全身を万遍なく使った運動で、終わった後の爽快感は何物にも代えがたい。

要するに全身の血液リンパの流れを活発にして、筋肉関節を伸ばし柔軟にして心身の調整調和を図るのが自彊術の目的である。万病克服の自彊術と言われた所以(ゆえん)である。

公益社団法人自彊術普及会では朝晩2回やりなさいと推奨しているが、自彊術を自分の生活習慣になるように定着させることが肝心である。

「元気は自分で作る、健康は自分で守る」を合言葉に皆さん一緒にやりましょう! (代表：久保 英章)



活動開始!心から笑顔に

エンジョイ・リーディング“朗読の会”

平成23年10月より10回コースで行われた、澤 則子先生による「朗読ボランティア養成講座」終了と同時に、当会が発足しました。

腹から声を出す。表情がオーバーになるほど大きな口を開ける。目を動かす。心から言葉を表現する。

絵本を読む練習でも、先生のアドバイスで「伝えている、伝わってきていること」が見え、心に響いてくるようになりました。読んでいる人、聞いている人たちが心から笑顔になります。

年齢を超えたグループメンバーの元気と纏まりの良さは、ボランティア活動に欠かせない要素として備わっています。講座の実習での介護施設への訪問は先方も我々も元気に楽しい時間を醸し出して、やる気を益々膨らませていました。

これからは、介護者、幼児等、幅広い対応のできるグループになれることを願っています。(代表：滑川 慶子)

センターサポーター活動報告

第3回 センターサポーター研修会(in真壁)

真冬の2月11日(土)に向かったのは、真壁のひな祭りと手作りソーセージを体験出来る下館工場。参加人数32名でのバス研修は、伝統的なおもてなしの心を学ぼうという目的でした。

登録文化財の街中に飾られたお雛さまたち、どの顔にも気品があり、やさしく迎えてくれました。古き良き時代の建物と人形を大切に守り育ててきた気概を感じました。



グループで目と耳と香りで楽しみ、訪れる家々では「おばあちゃんのもので」と昔を懐かしむ顔があり、たずねて来る人への暖かな、もてなしの心に和む一時でした。段飾りばかりでなく座敷一杯に広げ「ひいな遊び」を彷彿とさせる展示もあり大変参考になりました。

ソーセージ手作り体験は、香辛料を選び材料を混ぜ細い腸に詰めていきます。でも思うように入っていない。仲間同士でワイワイ言いながらの1時間の格闘で何とか形になり、「今夜食べるのが楽しみ」と笑顔です。良い体験ができた大喜びの声もあり、有意義な研修となりました。(吉久保 忠サポーター)

協賛団体(順不同)

私たちは県北生涯学習センターを応援しています

アンティークギャラリー花てまり
㈱ニシノ清塗工 ㈱日立塗工店
鈴縫工業㈱ そうざい畑
日立電鉄交通サービス㈱

アル交通 泉 有 税理士事務所 五浦観光ホテル大観荘
㈱富士塗装店 ㈱皆川美術建築設計事務所 ㈱宮本商店 ㈱山森
鈴縫工業㈱ SOVA・TEA 越路 大成印刷㈱ 多賀ステーションホテル 立原歯科医院 中華飯店登龍門
日立電鉄交通サービス㈱ 風月堂 プメバナ・フラ・スタジオ プレビ㈱ 山名塾 ㈱カドワキ産業 ㈱木村書店 ㈱志お屋 ㈱スタンプナメカワ

大高かおる堂 小野智久土地家屋調査士事務所 カフェ マオズマム ㈱オーシャンスポーツクラブ ㈱柏屋 ㈱五来モータース ㈱昭和活版所
グリーンふるさと特産物協同組合 合名会社立川醤油店 三英堂ビジネス 照栄製作所 十王物産センター鶏喜鶏喜 菅原税務会計事務所
手織工房 糸あそび トキワトラベル 特別養護老人ホームMAO 日立高速印刷㈱ 日立電設工事㈱
㈱カドワキ産業 ㈱木村書店 ㈱志お屋 ㈱スタンプナメカワ ㈱沼田クリーンサービス ㈱日電舎 ㈱やまがた屋 ㈱ライブサポート平賀

23年度を振り返って

センター運営協議会 顧問 大久保 武氏

未曾有の災害をもたらした東日本大震災から一年が過ぎようとしています。震災直後は混乱して気持ちが落ち込みそうになる中、家族や地域の絆の大切さも痛感させられました。

さて、県北生涯学習センターは開所6年目を迎える時に震災に遭遇しましたが、建物の被害は幸い小さく、点検や修理を進めながらの開館となりました。震災で利用者が減少するのではと危惧しましたが、予想に反して増加したとのに驚いています。

被災した施設からの利用者の増加が主な要因とのことですが、男性利用者が増加していることや講座等で高い満足評価を戴いていることなど、県北生涯学習センターが地域の中で広く親しまれている証左と言えます。

NPO インパクトが、センターの指定管理者となつて5年が経過し、23年度から新たな5年間でスタートしました。これまで培ったノウハウを生かし、地域に根ざした生涯学習センターに発展されることを期待します。



情報図書室のコーナー

ふるさとを知ろう

あの震災から1年が過ぎました。いつもの街のいつもの毎日が、いかにあっけなく奪われるものであるかを、多くの人が実感した1年でした。

情報図書室では、今、郷土の本の充実に力を入れています。自然、文化、産業、そして地域のために力を尽くしてきた先人たち。守りたいもの、伝えたいことが県北にはたくさんあります。郷土を再認識するための一助として、図書室の本を活用してください。本を通じて頭と心に蓄える知識は、何を持ってしても損なうことはできません。

「県北のこれまで」だけでなく、ジオパーク関連など「県北のこれから」も見据えて、図書室はさらに情報を揃えていきます。皆様のご利用をお待ちしています。
(総務：中村)



INPACTの星

「経の糸 緯の糸」

NPOインパクト 美術部会 桑原 洋子



二十年前の事、ふと立ち寄ったデパートの個展会場で思わず足が止まりました。それはハッとすると程の美しい布でした。布を織られた先生はとても魅力的な方でした。出会いとは不思議なものです。以来、織に魅せられ手仕事とは無縁だった私が織機と向き合う日々を送るようになったのですから。

手織りの布はしっかりと張った経の糸に様々な色や素材の緯の糸をくぐらせ時間をかけてトントンと織り上げます。経と緯の糸がからみ合い思いがけないハーモニーを奏でます。展示会の為に裂織りのタペストリーを制作しながら思うことがあります。いま私は先生から大切な経の糸を託されて、沢山の仲間達と共にそれを引き継いでゆくお手伝いをさせていただいているのではないかと。

どうぞ手織りのぬくもりに触れその感動を味わってください。小さな教室の経の糸から笑顔の輪が大きく広がります様にと願っています。



編集後記

季節が巡って春が来る。待ちに待った桜が咲く。昨年は半壊の我が家が心配で花を愛でる余裕もなかった。そのせいか今年は、やたらと待ち遠しい。同じ心境なのかしら。24年度の講座が待ち遠しいと声が聞こえた。準備万端お届けは、もうすぐです！
(梶山)

NPO
インパクト

茨城県県北生涯学習センター運営（指定管理者）

平成12年設立。文化・芸術・スポーツの振興を通じて、元気で明るいまちづくりを目的に活動。日本初の生涯学習センター民間運営に携わる。

指定管理者：NPOインパクト

茨城県県北生涯学習センター

<http://www.kenpoku.gakusyu.ibk.ed.jp>

〒319-1304 茨城県日立市十王町友部2581

TEL：0294-39-0012 FAX：0294-39-0121

e-mail：info@kenpoku.gakusyu.ibk.ed.jp